

2021 年度 智美術館プレスリリース

三輪龍氣生の陶

命蠢く

Ceramics by Miwa Ryukisho
Stirrings of Life



2021 年 4 月 17 日(土)~8 月 1 日(日)

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 TEL 03-5733-5131

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

この度は、当館で 2021 年 4 月 17 日（土）から 8 月 1 日（日）まで開催いたします「**三輪龍氣生の陶—命蠢く—**」展をご案内させていただきます。

三輪龍氣生（みわ・りゅうきしょう／1940—／本名・龍作、十二代休雪）は、陶によるシンボリックかつ具象的な造形で、その時々自身の心情を形にしてきました。率直ともいえるそれらの作品は、生命への喝采、官能の歓び、苦悩、死についての考察、祈りといった人間の本性といえる普遍的なテーマを示します。

三輪は江戸時代から続く萩焼の名門陶家に生まれ育ちますが、茶の湯の世界で親しまれる萩焼の伝統に立脚するというよりも、やきもので自己を表現するために、既存の概念にとらわれない自由な制作を求めます。彫刻的なアプローチで成される造形は頭蓋骨や乳房、苦悶の胸像や鷲など具象的で、自身の死生観や憧憬、情念が投影されています。三輪はこの造形にやきものならではの質感や量感、自身を育む萩の風土や伝統を昇華させて制作を深めると同時に個性を表現するのです。そして、作品に立ち上がる圧倒的な生命感、鑑賞者の内奥に潜む感情をも刺激し、命に訴えかけます。

本展では、人間の根源に迫る三輪龍氣生の陶の造形を、初期の代表作をはじめ、2019 年に休雪から龍氣生に改号後に制作された新作を含む 80 点によって紹介します。

つきましては、この展覧会を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 「三輪龍氣生の陶—命蠢く—」展
- 会 期 2021 年 4 月 17 日（土）～8 月 1 日（日）
- 観 覧 料 一般 1,100 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協 賛 京葉ガス株式会社
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館（東京都港区虎ノ門 4-1-35）
- 開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
- 休 館 日 月曜日（ただし、5 月 3 日は開館）、5 月 6 日（木）
- 展示内容 初期の代表作から新作まで 80 点

展覧会に関するお問い合わせ 担当：島崎・足立（☎03-5733-5131/ FAX03-5733-5132）

三輪龍氣生の陶の造形 —特徴と見所—

- 1, 自己を表現する陶の造形
- 2, 次々と多様な形を生み出す自由な創造力
- 3, やきものの美意識が完成させる造形
- 4, 十二代休雪から龍氣生に改号後の新作

1, 自己表現としての陶の造形

—自身の心情に率直に、官能や死生観までも表す

三輪龍氣生はその時々的心情や興味を陶で造形化しています。もがき苦しむ胸像で自身の苦悩を表し、官能の歓びをヌードの造形に示したかと思えば、乳房の造形で母性への憧憬を形にし、極彩色のドクロには自身の自虐的実存を表します。他にも、男性と女性を象徴させた造形で生命誕生の現場を造形化する一方、炎と自身が一体となる命の終焉までも陶に表すのです。

現代の陶芸分野では、器形状からオブジェのような用途のない造形まで幅広い作品が発表されていますが、陶土や技法、技術、形式、機能性や歴史、伝統などやきものに関する事柄を制作の土台とする傾向にあるのに対し、それらとは一線を画し、自己を表現するために自分自身を粹組みとする三輪の制作は稀有なものです。その時々興味、疑問、心の動きを率直に造形化する三輪の作品には、人間の本性に迫る普遍的なテーマが示されると同時に、圧倒的な生命感が宿ります。

2, 自由な創造力が生み出す多様な造形

三輪の作品は、シンボリックで具象的な造形を中心としています。半世紀以上にわたって次々と異なる造形を生み出しており、自身の思考に基づいているからこそ、その内容によって全く異なる作品が生まれます。その形状もさることながら、大きさについても7メートルを超える大作から掌にのるものまで制作内容に合わせて異なります。それらの作品にはやきものの既成概念にとらわれない三輪の自



(図1・参考) 本展出品作「人間シリーズ」、「淑女と紳士」、「泣くⅡ」など1960年代から1970年代の代表作



(図2) 「黒のソナチネ」1977年 高さ45.0 cm



(図3) 「やわらかい海1」1997年 高さ59.0 cm

由な創造力が示されるとともに、思考の変化や変遷も追うことが出来るのです。

また、その造形手法も自由な制作を可能にしている要因といえます。ロクロや紐づくり、型成形といった陶芸技法よりも、土の塊から形を作り出す彫刻的なアプローチで造形しており、三輪にとって、自身が求める形をダイレクトに造形化できる手法といえます。

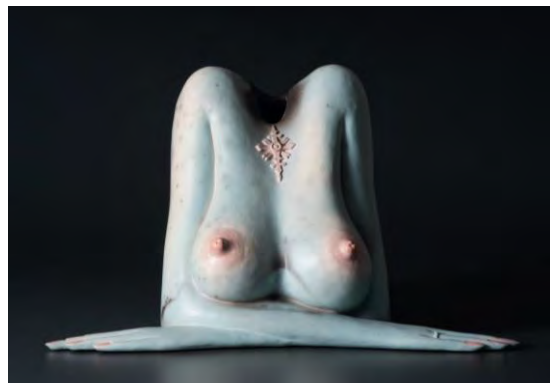
3, やきものの美意識によって完成する造形

彫刻的なアプローチで形づくられる自由な造形を三輪はやきものならではの美意識によって完成させます。土の造形は焼成によってその形が固定され、窯の中で生じる様々な化学変化が作品上に現れますが、三輪はその変化を見どころにするのではなく、制作効果として用いるのです。

極彩色の釉薬を使って作品に自身の情念と共にサイケデリックでキッチュな魅力を吹き込む一方、金彩による黄金をふんだんに用い妖艶かつ絢爛な輝きで作品を包みます。図3から図6は釉薬を用いずに低火度で燻し焼く黒陶によって制作されていますが、釉薬をかけないため形が正確に現れ、厳かで静謐な佇まいとなる一方、表面を磨き上げて低火度で焼成した土肌は、柔らかく艶めかしい質感で造形を際立たせるのです。

また、萩焼の名門陶家に生まれた三輪にとって茶の湯の場に親しい萩焼は身近なものですが、その萩焼伝統の白萩釉を用いた官能や苦悩などの造形には個人の表現と伝統が一体となっています。

これらの多様な陶の造形作品を三輪は窯から出してすぐに自宅の茶室の床(とこ)に置いてみます。三輪にとって自己表現としての自由な制作とはやきものらしさや伝統を否定するものではなく、それらを自由な造形に昇華させて作品の深みとし、あくまで自分自身に立脚した世界を追求するということなのです。



(図4)「花器 摩利耶 22」2001年 高さ 26.5 cm



(図5)
「終炎 3」2000年
高さ 59.0 cm



(図6)「白昼夢」2019年 高さ 33.5 cm



(図7)「女帝・荘厳」2015年 高さ 43.0 cm

4,十二代休雪から龍氣生に改号後の新作

三輪家は代々「休雪」の名前を継いできた江戸時代前期から続く萩焼の陶家です。十二代として家を継いだ三輪は 2019 年に弟の和彦に家督を譲り、陶号を休雪から龍氣生に改号しました。本展には改号後の発表となる新作 16 点を展示します。

宇宙や地球の成り立ちである生成と崩壊 (図 10)、幸せや豊かさがある日突然失われる不条理 (図 9) などを通して人類の在り様を俯瞰する作品や、遠方を見つめる鷲の頭部と乳房によって雄々しさと豊穡を表した作品 (表紙・図 8) からは、新たな境地に向かおうとする作家の姿を窺うことができます。



(図 8)「豊饒の視志」2020 年 高さ 55.0 cm



(図 9)「或る光景」2019 年 高さ 19.0 cm

(図 10)「崩壊と生成」2020 年 高さ 101.5 cm

■三輪龍氣生 (みわ・りゅうきしょう) 略歴

- 1940 三輪壽雪 (十一代三輪休雪) の長男として山口県萩市に生まれる。本名：龍作 (りょうさく)
- 1959 画家を志望し、絵画制作を始める。エドヴァルド・ムンクの絵画や谷崎潤一郎、太宰治の文学に惹かれる。
- 1967 東京藝術大学大学院陶芸専攻修了
走泥社同人となる (1975 年に退会)
- 1968 初個展「三輪龍作の優雅な欲望展」(壺番館画廊・東京)
- 1970 個展「愛液展」(壺番館画廊・東京)
- 1976 「日本陶芸展」(東ドイツ・ドレスデン) で展示作品《淑女と紳士》が陳列拒否される
- 1977 「ファエンツァ国際陶芸展」(イタリア・ファエンツァ) 受賞
- 1978 個展「人間シリーズ展」(青木画廊・東京)
- 1980 「やきものから造形へ展」(大津西武・西武池袋本店)
- 1981 個展「初咲展」(日本橋三越本展)
- 以後、三越、高島屋、大丸、京王百貨店、有楽町西武等で個展を重ね、美術館の企画展にも多数出品する。
- 1982 「現代の陶芸—伝統と前衛—展」(サントリ一美術館)
- 1991 個展「三輪龍作 卑弥呼の書展」(有楽町アート・フォーラム・有楽町西武)
- 1992 「日本の陶芸『今』百選展」(パリ三越エトワール)
- 2001 個展「摩利耶 三輪龍作展」(フジキ画廊・東京)
- 2003 十二代休雪を襲名 (4 月)
個展「十二代三輪休雪襲名記念 金彩 シルクロード盤展」(高島屋大阪・京都・日本橋)
- 2009 個展「陶 愛と死の融合 十二代三輪休雪展」(パリ三越エトワール・日本橋三越・福岡三越)
- 2010 個展「『龍人伝説』への道 三輪休雪展」(山口県立萩美術館・浦上記念館)
- 2011 日本陶磁協会賞金賞 受賞
- 2013 智美術館開館 10 周年記念「三輪壽雪・休雪—破格の創造展」(菊池寛実記念 智美術館)
- 2019 家督を弟・和彦に譲り、龍氣生と改号
- 2020 「三輪龍氣生展—行け、熱き陶の想いよ。」(山口県立萩美術館・浦上記念館)

■■■ 展覧会関連行事 ■■■

◆三輪龍氣生・アーティストトーク

作家自身に制作についてお話しいただきます。

6月5日（土）15時より 当館 B1 展示室にて

参加希望者には当日 13 時より入館 1 名につき 1 枚、座席整理券を配布します。）

◆講演会

「エロスとタナトスの陶造形」

講師：石崎泰之（山口県立萩美術館・浦上記念館 副館長）

6月26日（土）15時より 当館 B1 展示室にて

●学芸員のギャラリートーク

いずれも土曜日 15 時より

5月1日、8日、22日、29日／6月12日／7月3日、10日

◆こども鑑賞会

お子様と保護者の方に向けた鑑賞会。やきものを見て、絵に描いて、発見しよう！

7月4日（日）11時～12時

定 員：8組様 お申込制→TEL：03-5733-5131

年 齢：4歳～小学6年生（保護者の方ご同伴のこと）

参加費：こども無料、保護者の方は要当日観覧券（一般 1,100 円）

講 師：富田めぐみ（NP0 法人赤ちゃんからのアートフрендシップ協会代表）

◆ナイトミュージアム

●軽井沢演劇部による朗読劇

「紙は舞う」陳舜臣作

閉館後の展示室で朗読劇をお楽しみいただきます。文学と陶芸のコラボレーションをお楽しみ下さい。

7月17日（土）18時30分より（開場 18 時 20 分）当館 B1 展示室にて

出演：軽井沢高原文庫 軽井沢演劇部

＜矢代朝子・山本芳樹（Studio Life）・岩崎大・（Studio Life）・坂本岳大＞

会費：3,000 円+当日観覧券（一般 1,100 円、大学生 800 円、小・中・高生 500 円）

定員：50 名様

4月20日（火）よりお申し込み受付開始

→TEL：03-5733-5131

※詳細はお申し込み受付後にお手紙をお送りいたします。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎・足立）

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX：03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話・FAX	E-MAIL：

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：	
	発行日：	発売日：
TV ラジオ	媒体名：	
	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・所蔵者・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
☐	（表紙・図 8）三輪龍氣生「豊饒の視志」2020 年 高 55.0 横幅 65.0 奥行 53.5 cm （撮影：伊藤晃）
☐	（図 1・参考）本展出品作「人間シリーズ」、「淑女と紳士」、「泣くⅡ」など 1960 年代から 1970 年代の代表作 （撮影：塚原琢哉）
☐	（図 2）三輪龍氣生「黒のソナチネ」1977 年 大阪市立東洋陶磁美術館蔵 高さ 45.0 横幅 39.0 奥行 38.0 cm （撮影：渚忠之）
☐	（図 3）三輪龍氣生「やわらかい海 1」1997 年 山口県立萩美術館・浦上記念館蔵 高さ 59.0 横幅 86.0 奥行 37.2 cm （撮影：田中学而）
☐	（図 4）三輪龍氣生「花器 摩利耶 22」2001 年 高さ 26.5 横幅 45.5 奥行 25.4 cm （撮影：伊藤晃）
☐	（図 5）三輪龍氣生「終炎 3」2000 年 高さ 59.0 横幅 37.4 奥行 19.2 cm （撮影：伊藤晃）
☐	（図 6）三輪龍氣生「白昼夢」2019 年 高さ 33.5 横幅 69.0 奥行 45.0 cm（撮影：伊藤晃）
☐	（図 7）三輪龍氣生「女帝・莊嚴」2015 年 菊池寛実記念 智美術館蔵 高さ 43.0 横幅 108.0 奥行 50.0 cm （撮影：伊藤ゆうじ）
☐	（図 9）三輪龍氣生「或る光景」2019 年 高さ 19.0 横幅 29.5 奥行 20.5 cm （撮影：伊藤晃）
☐	（図 10）三輪龍氣生「崩壊と生成」2020 年 高さ 101.5 cm 横幅 169.0 奥行 73.3 cm （撮影：伊藤晃）

●読者プレゼント用チケット希望： ☐5 組 10 名様 ☐10 組 20 名様

プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2021 年 4 月 16 日（金） 13:15 ～

13:15 ～13:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説を行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

13:45 ～14:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、時間、内容を変更させていただく場合がございます。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅 出口 4b より徒歩 6 分
・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅 出口 A1/A2 より徒歩 8 分
・南北線・六本木一丁目駅 改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅 出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。**返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
Email	